



# interview Vol.8

東京土木施工管理技士会

## 優良技術者インタビュー

土木技術者の日頃の研究・研鑽を称え、技術者表彰規程に基づき、優良技術者の表彰を毎年行っています。受賞された海老原さんに工事のポイントや日々の業務について伺いました。



大林道路株式会社  
**海老原 雅彦**さん  
(東名高速道路 横浜管内舗装補修工事  
平成30年度)現場代理人)



### 受賞 東名高速道路 横浜管内舗装補修工事(平成30年度)

#### 主な工事内容

東名高速道路(東京IC~大井松田IC)の舗装の集中工事と、夜間の単独規制による圏央道・新湘南バイパスの舗装補修工事

車の往来が激しく、施工時間が制限される高速道路の工事において、多くの工事関係者が安全かつ円滑に作業できるよう、綿密な事前計画を立て、関係者への勉強会や周知会を徹底。安全・安心な道路空間の実現と、工期を延長することなく事業を完遂したことが高く評価された。



「大きいものをつくりたい」  
車との出会いから“道路”の世界へ



高校生の時、橋やトンネルといった大きな土木構造物をつくりたいという想いがあり、大学では土木を専攻しました。就職先はゼネコン・設計・役所と様々な選択肢がありましたが、大学時代に車が好きになったことをきっかけに、土木で車にかかわる仕事といえば道路、ということで道路業界を目指すようになりました。

高校の頃は想像していませんでしたけれど、車と出会ったことで道路施工に携われる会社を選びました。

「3週間の工事」のために半年  
かけて準備。周知と段取りが重要な  
高速道路集中工事



この工事では、東名高速道路の東京~大井松田間、50kmほどもある範囲を短期間で一気に施工します。工事エリアである東京ICは東名高速の玄関口なので、交

通量が非常に多い。そのうえ、夜の限られた時間で複数の施工班が何か所も同時に作業するため、安全管理・工程管理は特に苦労しました。

1年の内で実際に工事をするのは3週間ですが、どうやってその期間で終わらせるのかを計画したり、たくさんの職員や協力業者がかかわるので、全員に現場の詳細や施工手順を共有したり、安全教育を実施したり…そういった段取りに半年くらいかかります。この工事作業に



従事するのは応援部隊として招集された職員で、彼らに3日か4日で工事概要や安全ルール、高速道路の品質管理など、現場について一から教えなくてはなりません。また、施工箇所が毎日に変わるので、現場までの移動経路や宿泊先も指示する必要があります。この日はどこのICから乗るのかなど、作業前の動きも含めいかに事前に計画しておくかが重要でした。

工事中の入退場車両の回数が1日100回、それが5班あれば500回走ります。その運転手さん全員にも工事内容の周知を徹底しました。全員を集めて一度に話すようなやり方では伝わらないと考え、要点を絞った資料作りや伝え方を心掛けました。

我々の工事の他に、電気や標識、遮音壁など他工種も並行で工事をしているため、そこの調整も必要とされる状況にありました。天候により施工場所を変更せざるをえない時、その変更先で他業者が作業をしていれば、こちらはすぐに作業ができず進捗に影響してしまいます。そうならないための調整にも力を入れました。降雨で舗装できない場合を想定したスケジュールを組んだりもしましたね。

大変でしたが、この区間の集中工事は複数年にわたって当社が携わっていたので、今回はその経験を生かすことができました。綿密な工程計画と、関係者への周知・教育方法がうまくいった達成感がありますし、当社でないとできない、自分たちでないとできないという自負もありましたので、努力してきたことが評価され表彰いただいたのはとても嬉しいです。努力すれば見てくれる人がいるということを部下に伝えていきたいです。

### 休日も家族で“アウトドア”派 ドライブ中は自身の仕事も思い出す



3年前くらいから、オートキャンプにハマっています。仕事柄、外にいる方が性に合っていますし、犬を飼っていることもあり、休みは家族で開放的な空間を満喫しています。また、車で出掛けて高速道路を通る時は「この工事やったな」とか思い出しますね。

「あと何日働けば休める」や「次の休日は何をしようか」と思うことで日々の励みにもなっています。



### 「マニュアル化」で時短につなげる 伝えていきたい建設業の「人の輪」



建設業界も業務時間の短縮や休暇の取得が課題となっていますが、今の現場では完全週休二日(土日閉所)と水曜日のノー残業デーを実施しています。残業に関して「仕事を終えたらではなく、定時になったら仕事を切り上げる」ということを周りにも意識させてやっています。

一方で、自分がこれまでやってきた業務を共有するための「マニュアル化」も進めています。蓄積されたノウハウや反省が、若い人たちの負担軽減に役立てば、今後の時短にもつながるはずです。

建設業の魅力、「モノづくり」の楽しさ・やりがいはもちろんですが、私はそれに加えて「人とのつながり」も大事だと思います。工事にはいろいろな技術者、その道のプロの存在が不可欠です。そこでいい関係を築き、次の現場でまた協力してもらったり、人脈を後輩に引き継いだりすることで、課題でもある労務者の確保につながります。それが自分自身の力になるし、会社の財産にもなる。そういう面白さがあると思います。

